



1 背景と目的

新型コロナウイルス感染症の拡大を背景に、働き方に対する意識と行動の変容が見られ、インターネットを活用したテレワークやワーケーションなど新しい働き方への需要が高まり、地方移住への関心も高まっている。

当町では、この機会を逃すことなく、新たな流れを生み出すための施策を展開し、将来的な移住定住・企業誘致につなげるため、リビングシフトを推進する。

※那須町におけるリビングシフトの定義は、「都市一極集中」から『地方・分散型社会』への転換、「仕事を中心とした生き方」から『自分の価値観を尊重した新しい「働き方」「暮らし方」「学び方（教育）」』への変化とする。

行動

○各種補助金や交付金の積極的活用 ○企業版ふるさと納税の活用 ※ 募集事業

・地域力創造アドバイザーの活用 ・地域活性化起業人の活用 ・地域おこし協力隊の活用

3 アクション (LAP-R5-P4)

関係人口創出事業（リビングシフト推進事業）

①二地域居住の推進 (LAP-R5-P5)

- ・全国二地域居住等促進協議会への参加
- ・お試し移住（テレワーク）事業
- ・セミナーの開催
- ・ふるさと町民制度
- ・デュアルライフアンバサダーの設置（検討）
- ・ワークショップやトライアルツアーの開催（検討）

②テレワークの推進 (LAP-R5-P6)
(ワーケーション・サテライトオフィス)

- ・テレワーク（ワーケーション）の推進
- ・ワークベース那須の運営、管理
- ・お試しサテライトオフィス事業
- ・テレワーク施設の普及
- ・企業へのPR事業
- ・情報発信

③リビングラボの推進 (LAP-R5-P7)

- ・公民連携の推進
- ・オープンイノベーションの推進
- ・サテライトオフィスなどの誘致
- ・町のリビングシフト推進事業及び社会課題を解決するため実践する団体への支援（リビングシフト推進交付金）

④ふるさと定住対策事業 (LAP-R5-P8)

- ・移住コーディネーターの活用
- ・移住に関する支援
- ・移住定住交流支援デスク（関係人口案内所）の設置
- ・空き家バンク制度の充実
- ・空き家の利活用

⑤ICT教育の推進 (LAP-R5-P9)

- ・ICTを活用した教育の推進
- ・コミュニティ拠点の整備
- ・プレゼンフェスティバルの開催
- ・デュアルスクールの検討
- ・産官学の連携

⑥公共交通の整備 (LAP-R5-P10)

- ・町民バスの運行
- ・デマンド交通の運行
- ・路線バスの運行支援
- ・定住自立圏地域公共交通
- ・新たな公共交通の検討

⑦公営住宅の整備及び管理 (LAP-R5-P11)

- ・定住促進住宅の管理
- ・町営住宅の管理
- ・住宅政策の検討
- ・PFI事業の検討

地域おこし協力隊事業 (LAP-R5-P12)

- ・多様な人材の採用
- ・お試し協力隊事業の実施
- ・起業支援
- ・多様な情報発信

効果

那須町への企業進出

関係人口及び移住定住人口の増加

新たなビジネスの創出

4 目標 (LAP-R5-P13)

那須町の豊富な地域資源を活用し、新たな価値や多様性を発信また推進することで、関係人口の創出（開拓）、多様な世代の誘客、企業人による新たなコミュニティの形成、地域の活性化を図り、移住定住・企業誘致につなげます。

- ・観光以上定住未満の那須のファンを増やす関係人口創出へ
- ・新たな誘客を図るための町内事業者への機運醸成を図る
- ・サテライトオフィスなど新たな企業誘致を推進
- ・「新たなライフ（ワーク）スタイル」に対応する那須のブランド化